

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	主要幹線管路のループ化を推進する事業						担当部	上下水道部
	会計区分	水道事業会計			事業類型	施設整備系	担当課	水道課	
	事業期間	平成12年度以前 ~ 平成30年度以降			担当係	建設係			
	総合計画 分野別計画	主目的	6 都市基盤		24 上水道		2 いつでも安定的に水を供給します		
		副目的	24-1						
	予算区分	款	1	項	1	目	1	大	中
	根拠法令・個別計画	小牧市上水道耐震化対策基本計画(平成17年度作成)							
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	主要幹線管路の耐震管によるループ化を進め、水道水の安定供給の強化と地震災害発生時の被害抑制を図る。							
	内容 (手段)	<p>◆25年度実施内容</p> <p>○耐震管によるループ化を進める。</p> <p>・主要幹線を耐震管でループ化することで、地震による水道管の被害や給水への影響を軽減することができる。万一損傷を受けて断水した場合でも他ルートで配水できるようにする。平成25年度末までの整備済延長は約20.2kmで、平成30年度までに目標値約27.6kmを達成するため、毎年約1.5km耐震管を布設する。 平成25年度は平成24年度の繰越事業と合わせ約1.6kmを実施しました。</p> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>H24繰越事業費の内15節 0円、20節 85,759,800円 H25決算額の内15節 5,565,000円、20節 231,924,000円 合計 323,248,800円</p> <p>※その他財源の内訳</p> <p>H24繰越事業費の内 消火栓設置工事負担金 352,940円 H25 消火栓設置工事負担金 1,102,670円 合計 1,455,610円</p> <p>◆26年度直接経費の内訳</p> <p>H25繰越事業費の内18節 0円、25節 40,000,000円 H26予算額の内18節 11,815,000円、25節 351,359,000円 合計 403,174,000円</p> <p>※その他財源の内訳</p> <p>H25繰越事業費の内 消火栓設置工事負担金 774,510円 H26予算の内 消火栓設置工事負担金 2,445,000円 合計 3,219,510円</p>							
	受益者負担	無							

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	379,293	165,807	323,249	403,174	
		正職員	従事者数	人	0.65	0.92	1.26	1.03
			人件費	千円	3,419	4,839	6,627	5,417
		その他職員	従事者数	人	0.15	0.02	0.00	0.47
			人件費	千円	380	52	0	1,188
		費用合計	千円	383,092	170,698	329,876	409,779	
対前年比	%			44.5	193.2	124.2		
財源	一般財源	千円	381,489	170,094	328,420	406,559		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	1,603	604	1,456	3,220		

業 績	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
	耐震管によるループ化を進める	km	目標		17	18	19	21
			実績		18	19	20	
			目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
主要幹線の耐震管によるループ化率	%	目標		63	67	69	76	
		実績		64	67	73		
		目標						
		実績						

事業の自己評価	平成25年度の 実施結果	事業の達成状況	平成25年度はループ管の1627.0mが完成した。これにより主要幹線の耐震管によるループ化率は目標値より4ポイント上回っている。				
		事業実施における課題	主要幹線のループ化計画作成時の布設ルートには、詳細調査(地形)によって施工困難な箇所が確認されている。工法変更、ルート変更等ループ化計画の見直しが必要である。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	ループ化全体を完成させないと、事故・災害時の水道水の安定供給ができない。よって、当該事業は計画通り実施していきたい。				
	平成26年度の 改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	工法変更を含め、ルート変更等を検討していく。				
	平成27年度の 事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	主要幹線のループ化によって、地震災害において管の破損による断水が軽減されるばかりでなく、万一の破損においても別ルートからの配水を受けることができるため、長時間断水のリスクが大幅に小さくなる。					
	27年度以降の改善案	早期完成に向け、道路管理者・河川管理者等との事前調整を十分に行い、必要なループ化計画管路の見直しを行う。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。